

米国研究製薬工業協会 (PhRMA)

日本医師会とともに“医師の生涯教育のあり方”、“偽造医薬品への取り組み”、“国民皆保険”をテーマに初の共催シンポジウムを開催

日時: 2013年9月19日(木)午後2:00~4:35

場所: ザ・ペニンシュラ東京 ザ・グランドボールルーム

PhRMA は日本医師会とともに、去る2013年9月19日に“医師の生涯教育のあり方”、“偽造医薬品への取り組み”、“国民皆保険の維持・推進”をテーマに初の共催シンポジウムを開催しました。

同シンポジウムは、日本国民への医療供給体制の充実を目指すための相互の協力関係を再確認し、“健康増進・健康長寿”の実現に貢献していく契機とするために実施したものです。

シンポジウムは田村 憲久 厚生労働大臣の来賓挨拶(代読:原 徳壽 医政局長)に続いて、横倉 義武 日本医師会会長の「医師会と製薬業界による今回のような共同事業の試みが、日本の将来の国民医療の充実と向上に確実につながるよう祈念する」という開会の辞と、チェスター・デビス Jr. 米国研究製薬工業協会 上級副会長の「本日の共催シンポジウムは、日本における国民皆保険制度の維持・向上という共通のテーマを促進するために、我々がいかに密接に連携することができるかを実証するもの」という趣旨の開会メッセージで始まりました。

第一部の「医師の生涯教育(CME)のあり方を考える」では、日米それぞれの現状と課題について、小森 貴 日本医師会常任理事とチェスター・デビス Jr. 米国研究製薬工業協会 上級副会長が講演を行いました。

両名による講演後の質疑応答では、会場から「アメリカの多くの州で、医師免許の更新条件としてCMEの活用を医師に求めているということだが、日本でも同様の動きがあるのか?」、「東日本大震災~福島原発事故を代表例とする、地域固有の環境問題に起因する健康影響への対処等は、今後CMEのカリキュラムに取り入れられるのか?」、「アメリカ全土でCMEに関わる費用はどれくらいなのか?」など、参加者の関心の高さを示す質問があがりました。

続く第二部の「最近の動向に関する話題提供」ではスコット・A. ラガンガ 米国研究製薬工業協会 広報・提携開発担当バイスプレジデントが「偽造医薬品に対するグローバルな取り組み」をテーマに講演を行いました。

講演では、インターネットの普及に伴い、ここ数年世界各国で急速に偽造医薬品が社会問題化している点や、問題の所在を地域別に見ると、中国・インドを筆頭に、アジアが突出して多い点を指摘し、こうした問題への国際社会の対応として、米国におけるインターネット薬局認証(VIPPS)プログラム導入等の事例を紹介しました。

後半のパネルディスカッションでは、石井 正三 日本医師会常任理事とアイラ・ウルフ 米国研究製薬工業協会 日本代表が座長を務め、小森 貴常任理事、チェスター・デビス Jr.氏、スコット・A. ラガンガ氏がパネリストとして再び登壇。日本において大きな成果を上げてきた国民皆保険制度を維持することをテーマに、医療側、製薬業界側それぞれの立場からの意見が出され、今後も、双方で国民皆保険を堅持していくという意見で一致しました。

最後に参議院議員でもある、羽生田 俊 日本医師会副会長による閉会の辞で締めくくられました。

本シンポジウムには、PhRMA 加盟企業を主とする製薬会社社員と、各都道府県の医師会所属医師を中心に、医療行政に関わる国会議員、関連官公庁職員、主要マスメディアなど、120名を超える聴衆が参加しました。

【シンポジウム模様】



田村 憲久厚生労働大臣の来賓挨拶を
代読する原 徳壽 厚生労働省医政局長



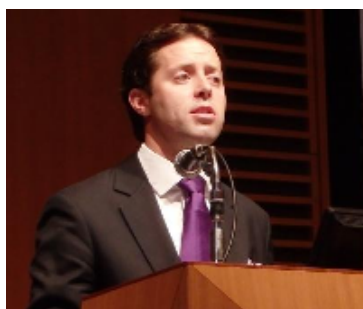
横倉 義武 日本医師会会長



チェスター・デビス Jr.
米国研究製薬工業協会 上級副会長



小森 貴
日本医師会常任理事



スコット・A. ラガンガ
米国研究製薬工業協会
広報・提携開発担当バイスプレジデント



羽生田 俊 日本医師会副会長
(参議院議員)

<パネルディスカッション風景>



<全体の風景>

